

平成28年8月19日

## 「電離放射線障害の業務上外に関する検討会」の検討結果及び労災認定について

### 電離放射線障害の業務上外に関する検討会について

- 電離放射線障害については、労災認定基準に基づき判断。（昭和51年11月8日基発第810号「電離放射線障害に係る疾病の業務上外の認定基準について」）  
〔 白血病の労災認定基準 ・5 mSv × 従事年数  
・被ばく開始後1年以上経過して発症 〕
- 電離放射線障害によりがんを発症したとして労災請求が行われた場合、厚生労働省において、医学専門家による「電離放射線障害の業務上外に関する検討会」（非公開）（座長：放射線医学総合研究所 明石真言）で検討した上で業務上外を判断。

### 検討結果について

- 開催日 平成28年8月18日
- 検討結果 東京電力福島第一原発事故後の作業従事者に発症した白血病について業務上との結論。

### 労災認定された事案について

- 労働者は50歳代の男性。
- 平成23年4月～平成27年1月の3年9か月間放射線業務に従事。
- 従事した作業の概要は、東電福島第一原発構内における機械修理業務。  
※作業時には防護服・鉛入りベスト・全面マスク等を着用。

### これまでの原発労働者の労災認定状況

- 原発労働者に係る放射線被ばくによる「がん」の労災認定は、これまで計14件。（白血病7件（※）、悪性リンパ腫5件、多発性骨髄腫2件）  
※昨年10月に労災認定された東電福島第一原発事故後の作業従事者に発症した白血病1件を含む。

## 放射線被ばくと白血病の労災認定の考え方

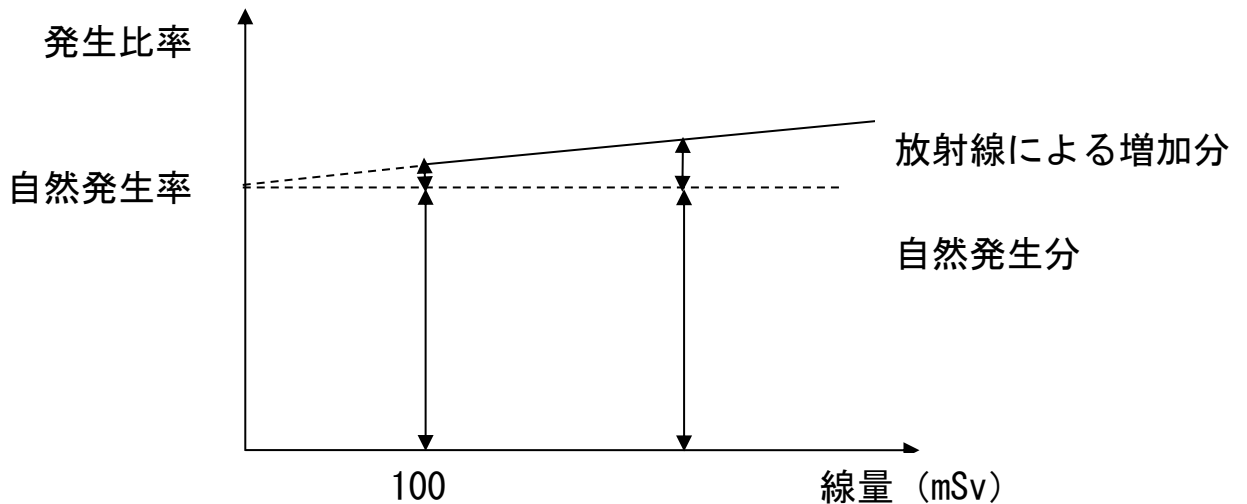
1. がんに対する約 100mSv 以下の低線量の被ばくの影響は他の要因に隠れてしまうほど小さく、健康リスクの明らかな増加を証明することは難しいと国際的に認識されている。また、白血病の発症には様々な要因が関係することから、業務と疾病の間の因果関係を個々の労働者ごとに認定するのは容易ではない。

このため、放射線被ばくによる白血病の労災認定については、労災保険制度の趣旨に鑑み、労働者への補償の観点から、労災の認定基準<sup>※</sup>を定め、これに合致すれば、医学検討会の協議を経たうえで、業務以外の要因が明らかでない限り、労災として認定することとしている。

※認定基準

- ① 相当量（ $5\text{ mSv} \times \text{従事年数}$ ）の電離放射線に被ばく
- ② 被ばく開始後少なくとも1年を超える期間を経た後に発病

【放射線被ばくとがん発症との関係】



2. 白血病の労災認定基準は、年間 5 mSv 以上の放射線被ばくをすれば発症するという境界を表すものではなく、労災認定されたことをもって、科学的に被ばくと健康影響の因果関係が証明されたものではない。